

EDITORIAL

International Veterinary Epilepsy Task Force (国際獣医てんかん特別委員会) による伴侶動物におけるてんかんの定義, 分類と用語, 好発品犬種, 診断, 治療, 治療試験の結果判定, 神経画像法および神経病理に関するコンセンサスレポート

[International Veterinary Epilepsy Task Force consensus reports on epilepsy definition, classification and terminology, affected dog breeds, diagnosis, treatment, outcome measures of therapeutic trials, neuroimaging and neuropathology in companion animals]

Holger A. Volk

(翻訳：長谷川大輔, 監訳：齋藤弥代子)

Keywords : てんかん, 発作, 犬, 分類, 症候学

Editorial

てんかん Epilepsy は伴侶動物において最も一般的な慢性神経疾患の1つである。その有病率は犬全体の0.5–0.75%と見積もられており[1,2], それは1動物病院あたり、犬130頭中の1件はてんかんを有した犬が来院することを意味する。てんかんの犬猫は身体を衰弱させるてんかん発作 epileptic seizures を経験するが、てんかんは反復性のてんかん発作以外のより多くの問題を引き起こす。てんかん患者は一過性の発作後の行動変化や臨床的障害に苦しむ。それだけでなく、罹患犬は短命であったり、発作間欠期に神経行動学的な変化といった併存症を発症するリスクも高く、生活の質(QOL)が低下したりする[3-6]. 疾患の衝撃は患者だけに影響するわけではなく、そのオーナーのQOLにも影響する[5-7]. 臨床、特に

神経科診療におけるてんかんの重要性に基づき、過去30年に渡って様々な研究が盛んに行われ、公表されてきている。

この多量な新しい情報にも関わらず、分類、定義、用語、治療成績の評価法、神経画像および神経病理学的な標準はこれらの多くの研究間で異なっており、それらを比較検討することを困難なものにしている。これはそれらの科学的インパクトを制限する可能性すらある。さらに、これはてんかんを持つ伴侶動物を診断する時や、その動物たちの飼い主へアドバイスをする際に臨床医をサポートしてくれるであろう、てんかんの共通理解や標準化された専門的なガイドラインの作成を妨げている。それぞれの論文にて使用されている分類、定義および用語法の多くは、ヒトのてんかんの国際組織である国際抗てんかん連盟

International League Against Epilepsy (ILAE) によるその時最も新しい提案を反映したものである。1960年代以降、ILAEはヒトのてんかんで用いられる用語の定義、分類および一致について取り組んできた[8-14]。ILAEは自身を“てんかんにより人生が制限されない世界を目指し、医師と他の医療専門者が協力する世界的な優れた連携”とし、この組織の目的を“世界中の医療従事者、患者とその介添者、政府および世間一般が、てんかん患者を理解し、診断、治療するために不可欠な教育および研究資源を保証すること”としている(ILAE homepage: [www/ilae.org](http://www.ilae.org))。ILAEはその目的を達成するため特別委員会 task force を組織し、てんかん社会に対して科学的かつ臨床的な枠組みを提供するためコンセンサスステイトメントの公表を行っている。これらのコンセンサスステイトメントは疾患やその治療、併存症および合併症に関する我々の理解における絶え間ない改良点を反映して5-10年毎に定期的に改訂されている。

2014年、獣医神経病専門医と非専門医からなるグループが国際てんかん特別委員会 International Veterinary Epilepsy Task Force (IVETF) を創立した。IVETFは故意に他のいかなる獣医あるいは人医の組織とは独立しており、その主たる目的は獣医領域、ブリーダー、犬のオーナーに(ある程度は猫のオーナーにも)てんかんの分野における重要な領域のコンセンサスステイトメントを提供することである。ブリーダーとオーナーから1次診療臨床医を通して神経病専門医と神経科学者までの‘医療の連鎖 chain of care’が存在する。各々のコンセンサスステイトメントはこれら全ての関係者達に有益な‘ユーザーフレンドリー’であり、実利的な、そして信頼性の高い正当なツールになることを目指している。さらにIVETFは適切なてんかんの治療や研究のための科学的かつ臨床的な枠組みを形成し、他の関係者との間のコミュニケーションにおいて皆が同じ、同意した「共通言語」の使用を可能にするプラットフォーム提供しようと努めた。各々のコンセンサスステイトメントは現在公表されているてんかんの知識に基づいており、そして一部に公表されたエビデンスへの著者の解釈を述べている。IVETFはヒトILAEからの新しい概念を反映しているが、獣医学用語や獣医臨床でより受け入れられてきたものも考慮している。我々は幅広い関係者の意見を取り入れることを確実にするために、コンセンサス作業部会は獣医とヒトの神経科医、神経科学者、臨床医、神経薬理学者および神経病理学者から構成した。伴侶動物におけるてんかんの重要な局面について、これほど多

くの臨床医や神経科学者が団結し、正式に合意したのは初めてのことである。そのため7つのコンセンサスステイトメントを展開するために26人の共著者が関与することとなった。これらのコンセンサスステイトメントはこのプロジェクトの終わりではなくむしろ始まりであり、IVETFは将来その権限とメンバーを拡大していくよう計画している。

IVETFは以下のコンセンサスステイトメントに同意した。IVETFは各々のステイトメントが犬猫のてんかん分野の発展に寄与し、そして我々の患者により良い医療を導くよう切望する：

1. 伴侶動物におけるてんかんの定義、分類および用語に関する国際獣医てんかん特別委員会コンセンサスレポート(邦訳公開:2017年2月獣医神経病学会ホームページ)[International Veterinary Epilepsy Task Force consensus report on epilepsy definition, classification and terminology in companion animals]
2. IVETFによるコンセンサス提案:犬におけるてんかんの診断的アプローチ(邦訳公開:2017年2月獣医神経病学会ホームページ)[International Veterinary Epilepsy Task Force Consensus Proposal: Diagnostic approach to epilepsy in dogs]
3. International Veterinary Epilepsy Task Force current understanding of idiopathic epilepsy of genetic or suspected genetic origin in purebred dogs(邦訳は順次公開予定)
4. IVETFによるコンセンサス提案:ヨーロッパにおける犬のてんかんの薬物療法(邦訳公開:2017年2月獣医神経病学会ホームページ)[International Veterinary Epilepsy Task Force consensus proposal: Medical treatment of canine epilepsy in Europe]
5. International Veterinary Epilepsy Task Force Consensus Proposal: Outcome of therapeutic interventions in canine and feline epilepsy(邦訳は順次公開予定)
6. International Veterinary Epilepsy Task Force recommendations for a veterinary epilepsy-specific MRI protocol(邦訳は順次公開予定)

7. International Veterinary Epilepsy Task Force recommendations for systematic sampling and processing of brains from epileptic dogs and cats (邦訳は順次公開予定)

略語

IVETF：国際獣医てんかん特別委員会；ILAE：国際抗てんかん連盟

利益相反

(翻訳省略)

投稿：2015年6月3日，受理：2015年6月29日

Online上の公開：2015年8月28日

参考文献

1. Kearsley-Fleet L, O'Neill DG, Volk HA, Church DB, Brodbelt DC. Prevalence and risk factors for canine epilepsy of unknown origin in the UK. *Vet Rec.* 2013;172(13):338.
2. Heske L, Nodtvedt A, Jaderlund KH, Berendt M, Egenvall A. A cohort study of epilepsy among 665,000 insured dogs: incidence, mortality and survival after diagnosis. *Veterinary journal.* 2014;202(3):471–6.
3. Shihab N, Bowen J, Volk HA. Behavioral changes in dogs associated with the development of idiopathic epilepsy. *Epilepsy Behav.* 2011;21(2):160–7.
4. Berendt M, Gredal H, Ersbøll AK, Alving J. Premature death, risk factors, and life patterns in dogs with epilepsy. *J Vet Intern Med.* 2007;21(4):754–9.
5. Chang Y, Mellor DJ, Anderson TJ. Idiopathic epilepsy in dogs: owners' perspectives on management with phenobarbitone and/or potassium bromide. *J Small Anim Pract.* 2006;47(10):574–81.
6. Wessmann A, Volk HA, Parkin T, Ortega M, Anderson TJ. Living with canine idiopathic epilepsy: a questionnaire-based evaluation of quality of life. *J Int Med.* 2012;26:1.
7. Lord LK, Podell M. Owner perception of the care of long-term phenobarbital-treated epileptic dogs. *J Small Anim Pract.* 1999;40(1):11–5.
8. Berg AT, Berkovic SF, Brodie MJ, Buchhalter J, Cross JH, Van Emde BW, et al. Revised terminology and concepts for organization of seizures and epilepsies: report of the ILAE Commission on Classification and Terminology, 2005-2009. *Epilepsia.* 2010;51(4):676–85.
9. Berg AT, Scheffer IE. New concepts in classification of the epilepsies: entering the 21st century. *Epilepsia.* 2011;52(6):1058–62.
10. Shorvon SD. The etiologic classification of epilepsy. *Epilepsia.* 2011;52(6):1052–7.
11. Fisher RS, Van Emde BW, Blume W, Elger C, Genton P, Lee P, et al. Epileptic seizures and epilepsy: definitions proposed by the International League Against Epilepsy (ILAE) and the International Bureau for Epilepsy (IBE). *Epilepsia.* 2005;46(4):470–2.
12. From the Commission on Classification and Terminology of the International League Against Epilepsy. Proposal for revised clinical and electroencephalographic classification of epileptic seizures. *Epilepsia.* 1981;22(4):489–501.
13. Commission on Classification and Terminology of the International League Against Epilepsy. Proposal for revised classification of epilepsies and epileptic syndromes. *Epilepsia.* 1989;30(4):389–99.
14. Commission on Epidemiology and Prognosis, International League Against Epilepsy. Guidelines for epidemiologic studies on epilepsy. *Epilepsia.* 1993;34(4):592–6.

この翻訳論文は IVETF およびその委員長である Dr. Holger Volk と BMC Veterinary Research の Senior Executive Editor である Dr. Hayley Henderson の許可の元に行われている。本論文の無断転用・転載・複製を禁ずる。本論文を引用する場合は英語の原著（題名も含む）を用いること。
またてんかん用語の日本語訳は可能な限り日本てんかん学会（ILAE 日本支部）が公表する用語に従っている。
IVETF 長谷川 大輔・齋藤 弥代子